

11月のさろんテーマ

新宿ルネッサンスをこれから

中山弘子（前新宿区長）



スローライフ学会は新宿区とのつながりが深い。設立総会は、早稲田大学大隈講堂で開催。第一回スローライフ学会のテーマは「新宿・歌舞伎町からスローライフの風を」。最初のワークショップは「スローライフスクール新宿」だった。筑紫初代学長の“命日週間”ということで、前新宿区長に新宿今昔をお話いただきます。

■お役所文化を変えたい

私は大学卒業来 35 年、公務員をしていました。行政の仕事は、法律で決められているから、前例があるからやるのではなく、住民に役立つことをもっと柔軟にやっていいのではないかと、また行政だけが公共事業を独占することに疑問をもっていた。行政の仕事の文化を変えたいと思っていました。

そして私の人生に区長でなるというイメージは全くなかったのですが、前任の新宿区長が辞任せざるを得ない事情ができ、私を押し人がいた。選挙に出て、結果当選してしまった。そこで役所の文化を変えることを恐れずに挑戦しようと思いました。

■土地の記憶を大事にしたまちづくり

選挙の時の私のスローガンが「にぎわいも一番、暮らしやすさも一番」。当選後に作成した計画書のタイトルは「歩きたくなるまち新宿—持続可能な都市をめざして」で、まさにスローライフ学会が考えているまちづくりのコンセプトに繋がるものだった。

2003 年、昔から知り合いの川島さんから学会の設立総会やフォーラムを新宿で、というお話を頂いた。土地の記憶を大切にしながらの住民みんなでつくるまちづくりは、区長になりたての私の信条にぴったりだったので、一緒にさせて頂いた。また、スローライフの「緩急自在」の考え方が役所文化を変えるのに役立つとも考えました。

■多様性を尊重したまちづくり

新宿区はとても面白い街です。もともと麹町がある四谷区、神楽坂のある牛込区、現新宿駅周辺の淀橋区という個性の異なる区が一緒になってできた。新宿という名前は御苑に新しい宿場ができたからついた。宿場や道は、人が行き交うところ。情報と人が行き交って、その町の特徴が生まれる。その記憶を大切にしたまち

づくりを考えていた。また新宿は外国籍の住民が 1 割もいるまちです。日本が明治以来多様な外国文化を採り入れて発展してきたとすれば、まさにそのエッセンスが新宿にある。

■歌舞伎町ルネッサンス

土地の記憶と多様性を考えて最初に取り組んだのが歌舞伎町ルネッサンス。歌舞伎町は戦後活性化を夢見る地元町会長たちが、歌舞伎の上演できるにぎわいのまちをつくろうと劇場や映画館のまちづくりを始めた。それがいつしか風俗と暴力団事務所のまちになり、歌舞伎町で儲けていたのはよそものたちだった。それを「まちに住んでいる人の手に取り戻そう、普通の人を楽しめるまちにしよう」と、まちの人たちに呼びかけた。今や海外からの観光客が泊まれるホテルが 2 千室以上、さまざまな劇場が進出してとても変わった。こういうまちが欲しいと考える住民がいれば必ず変わる見本です。

■そして神楽坂

女性がひとりでやってきても楽しめるまち。NPO が仕掛けをして楽しいまちにしています。神田川には鮎も戻ってきた。住み続けられるまちを目指して、区民の身近で便利な所に地域センターをつくり、統合で空いた小学校は認知症の方のための複合施設に変えてきた。

住みやすいまちの当事者になるひとを育てる。貢献の仕方は一様ではなくて、寄付で貢献する人、活動で貢献する人など、貢献できる場を多様に作りだす。それが 12 年間区長としてやろうとしたことかもしれません。

【意見交換】

Q まちが変わることの一つに清掃があると思う。新宿ではどうか。

A 歌舞伎町では区民が月 1 回掃除している。始めた当初はたくさんゴミが集まったが、今は吸い殻が少し。掃除する人間の方が多い(笑)。でも掃除だけでは面白くない。そこで緑化に取り組んだ。バス停に蔓性植物を這わせてる。緑は CO₂ を吸収し気化熱で風をつくる。ゴミを取り除くだけでなく、綺麗を創り出す活動が大切なのです。(2015 年 11 月 17 日開催)